



# 紀平真理子のオランダ通信

第7回

## フリースランドの酪農家訪問記(3・最終回)

### プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペインラテンアメリカ学科卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてにおいて実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

Haarisma 夫妻にオランダの農家らしく、きっちり、コーヒーを2杯ごちそうになる間に同国の酪農家の現状を聞いた。ここできっちりとして表現したのは、オランダの農家ではコーヒー2杯分を飲み終えるまでが休憩時間といううわさがあったからである。

まずは牛の管理方法についてだ。オランダでは子牛が生まれたら耳に番号の入ったタグを付ける。そして、役所に管理者、耳に付けた番号、母の名前等々の情報を早急に申し出る。近隣とトレードする際も「いつ誰から誰に」受け渡しが行われたか、という内容の届け出をしなければならぬ。

「以前、フリースランド州では週2回、農家同士のトレードマーケットがあったんだけど、病気の拡大原因になり得るため、現在は週に1回、牛のトレーダーが訪問して近隣農家とのトレードについてアドバイスをしてくれるんだよ。少しコミッションが必要だけどね」

これに続いてDijkは交配に言及した。

「通常は自分たちでブリーディングし、自然交配を行なっているよ。大規模酪農家は人工授精もしているみたいだね。ちなみに、初妊牛の価格は季節によって異なり、冬期は牧草

などの生の飼料が不足する関係で牛の出荷（供給）が多くなり、価格が下がる。だいたい冬前だと1100ユーロだね。年や気候によっても異なるけど、夏前だと同じ牛でも700ユーロ近くにはね上がることもある。価格の変動を読んでトレーダーと作戦会議することが重要だよ」

では、彼らの戦略とは何か。

「生まれてから初めての搾乳までは2年2カ月かかり、12歳まで搾乳できる。それと、8回から9回は出産できるかな。オランダでは10カ月間搾乳し、残りの2カ月間は繁殖期で搾乳しない（取材したときは繁殖の時期とは関係なかった）。ちなみに、ニュージーランドでは繁殖期でも搾乳するらしいので繁殖期が決められておらず、それからするとこれはオランダ独自の風習かもしれないね。でも、ここがもうけるポイントなんだよね。夏は放牧するから牛もストレスが少なく、大量に搾乳可能で、大量の生乳を市場に供給できる。その分、生乳の供給量が少ない冬の間は生乳1ℓ当たりの納入価格が高くなるんだよ。もちろん、冬に生乳を大量供給できるように繁殖期を調整してスケジュールを組んでいるよ」

さすがオランダ、話していると最後はなぜかお金の話になる。しかし、

いいことばかりではないようだ。

「以前、農家は燃料税が控除されていたんだけど、現在は燃料税が1ℓにつき40セントかかるので、1日に牛約1頭の生乳分の税金がかかってしまっただよ。不思議なことに納入価格はずっと変わらず、約50セントだ。困ったもんだけど、経済危機もあるし、仕方がないね。先ほども話したように納入時期や餌やりのスケジュールをコンピュータで管理し、できるだけ効率的に育成して収入が得られるよう工夫しているよ。さあ、次は日本と商売でもしようか。一緒にやらないかい？」

ジョークを交えながら話し、2杯目のコーヒーを勧めてくれた。彼らの周りの変化に動じず、不満を笑いに変え、自分たちのやり方で状況を打破しようとする姿勢から学べることは多いのではないだろうか。



耳に登録番号とバーコードが付いた子牛。